



杉本達治知事(右)を表敬訪問した小西社長(中央)

福井に感熱顕色剤工場

高耐熱品 年1000超ト、来秋稼動

小西化学

スーパーエンジニアリングプラスチック原料のジヒドロキシジフェニルスルホン(DHDPSS)最大手である小西化学工業(和歌山市、小西弘矩社長)は26日、福井工場(福井県坂井市)内に感熱紙

用顕色剤の生産棟を建設すると発表した。高耐熱が特徴の顕色剤は、電子管理システムの誤認識の原因となるバーコードの印字汚れを抑えることができ医療分野で注目されている。1期投資で年1千数百トの製造設備導入を計画。稼働する来年11月に、本社工場と合わせ生産能力が年2000トに倍増する見通し。

顕色剤は当初、フックシミリ紙に使われていたが、電子管理が普及したことでバーコードラベルの市場が急拡大。同社の顕色剤は強靱なジフェニルスルホン骨格を持つDHDPSS誘導体(ジフェニルスルホン)で、高耐熱だけでなく高耐水性や優れた経口安全性も備える。バーコードの水濡れ対策などが課題となっていた生鮮食品分野でも注目され、本社工場での年1000ト弱の供給体制では将来対応できなくなる可能性がある。

新棟は鉄骨3階建て、建築総面積820平方メートルで、関係する倉庫も1棟新設。投資額は15・5億円を見込んでおり、今年10月には着工予定。福井工場の既存のDHDPSS生産棟と同様、IoT(モノのインターネット)などを導入して設備の計装化を進める方針だ。福井県庁で記者会見した小西社長は「DHDPSSの基盤技術を活用した新事業創出は当社の経営戦略の柱。今回の増設は本社の研究開発で新事業を育て、本格事業化のめどが立ちは福井で量産するという事業モデルの第3弾となる。顕色剤以外の感熱分野にも進出したい」と強調した。

同社は2013年、ポインティングの省エネ旅客機「B787」採用の日本製CFRP(炭素繊維強化プラスチック)向けにエポキシ樹脂を生産するため福井工場を建設。新事業である同樹脂は第2の経営の柱に成長し17年末、DHDPSSの大型工場(年3000ト)を新設し生産能力を倍増。本社での開発・試作棟の完成を受け、今年から量産拠点である福井での次期投資を検討してきた。